

平成22年度 学校法人 みどり学園 事業報告

I 法人の概要

1. 沿革

本学園は、設立者平尾マサノが、終戦直後の大阪府布施市において、幼児教育の施設がほとんど無く、子どもたちが路傍に放置されている状況を見て、幼児期からの集団保育の必要性を痛感し、地域住民の協力を得て昭和24年5月に岸田堂公民館を借用し、約40名の幼児の施設として発足したことに始まる。その後園児も増え現在の園地に移り、昭和28年6月大阪府認可幼稚園となる。昭和55年1月に大阪府認可幼稚園から学校法人立幼稚園に設置者変更。平成14年4月には大阪総合福祉専門学校での福祉専門職の教育を発展させることをめざして大阪健康福祉短期大学を設置し、時代の要請に応え、介護福祉学科（昼間部・夜間部）を開設。平成18年4月に子ども福祉学科を増設。平成22年4月に介護福祉学科I部別科を設置、現在に至る。

2. 学園教育目的

本学園は、教育基本法及び学校教育法に従い、学校教育を行い、人間らしく生きることが出来る未来社会への希望を託せる人材を育成することを目的とする。

3. 設置する短期大学・幼稚園及び入学（園）定員、学生（園児）数の状況〔平成23年5月1日現在〕

(1) 大阪健康福祉短期大学（大阪府堺市堺区田出井町2番8号）

学科名	収容定員	現 員	入学定員	入学者数
介護福祉学科I部	120名	89名	60名	44名
介護福祉学科II部	90名	7名	30名	0名
子ども福祉学科	160名	125名	80名	69名
介護福祉学科I部別科		35名		

(2) みどり幼稚園（大阪府東大阪市寺前町2丁目2番12号）

	収容定員	現 員
みどり幼稚園	95名	94名

4. 役員・評議員の概要〔平成23年5月1日現在〕

理事長：平尾達夫

理事 9名（定数9名）、監事 2名（定数2名）、評議員 19名（定数19名）

5. 教職員の概要〔平成23年5月1日現在〕

	教 員	職 員
--	-----	-----

大阪健康福祉短期大学	23名	13名
みどり幼稚園	6名	2名

II 事業の概要

1. 法人部門

平成23年3月11日に起きた東日本大震災で、直接の被害を受けた者は、幸い教職員や学生の中には見当たらなかったが、これから関西でも生活面でさまざまな影響を受けて、それが学生募集などにも波及するのではないかと、という心配は拭いきれない。被災地の人々を支援するために、募金箱を事務センターカウンターに設置、卒業式や入学式では保護者に募金を呼びかけるなど、救援資金を集める取組みを行ってきた。

今年度、短大にとっては何よりも財政再建が課題であった。平成22年4月中旬に私学共済・事業財団の現地調査を受けた後、その指導を受けながら、文部科学省へは7月末に平成22年度から26年度までの、5ヵ年にわたる経営改善計画を提出した。運営調査委員会の審査を受けるに当たって、理事長、常務理事、法人事務局長の3名が10月に文部科学省に出席を求められ、改善計画についての事情調査を受けた。

運営調査委員会の調査結果については、文部科学省から2月15日に連絡があり、指導・助言事項のうち、「学校法人の経営に関する中長期的な見通しや構想の下に、経営改善計画の作成等により経営基盤の安定確保に努めること」が付されているので、それに沿った経営改善計画を提出するように指示された。

学内では、教職員給与の定期昇給を凍結するなど、年度初めから厳しいスタートになった。財政状況を公開して全教職員が課題を共有できるように、理事長が3ヵ月ごとの月次決算報告を行った。年間を通じて一時金も支給できないほど厳しい状況であったが、全教職員の協力が得られたお蔭で、3月末の決算では当初の目標であった収支均衡がなんとか実現できた。平成23年度の定期昇給は実施できる見通しになったが、財政再建を進めながら、教職員の処遇を徐々に回復させることが当面の課題になっている。

平成23年度は大阪健康福祉短期大学の創立10周年・創紀26周年にあたる。秋葉英則学長を先頭に、本年度初めから多くの団体と共に実行委員会を結成して、祝賀会や記念行事の準備をすすめてきた。祝賀会は平成23年11月23日（祝）に行うことが決定されている。

平成24年度学生募集から介護福祉学科Ⅱ部の募集停止を、残念ながら6月の理事会で決定したが、残る2学科の定員充足が経営的には最重要の課題となる。

今年度、大阪府の『緊急雇用創出基金事業』「介護福祉士コース」を受託し、別科生として23名の委託生を受け入れた。介護福祉学科Ⅰ部は定員まで13名不足していたが、経営的には別科生を受け入れたことによる収入で、定員不足分を補って余りある結果になっている。

2. 大阪健康福祉短期大学

(1) 本年度の主な取組み

昨年度、高校訪問や説明会等には、教職員が手分けして例年以上に参加して努力したが、残念ながら各科とも定員は依然として満たせていない。本学の財政状況を改善する方策としても、学生確

保が必須条件であることは、教職員に共通した認識になってきている。

1) 介護福祉学科 I 部・II 部

介護福祉学科 I 部では、平成 23 年度入学者は定員の 7 割強にあたる 44 名にとどまっている。国家試験導入の問題が年度末まで尾を引き、国会で国家試験導入を 3 年間延期するための法改正が未だになされず、受験生に導入延期を最後まではっきりと説明できなかったことが大きく影響している。

介護福祉学科 II 部では、大阪府の進路選択学生等支援事業補助金を受けて学生募集に取り組んだが、勤務の多様化など職場状況の変化や、別科との関係もあって、平成 23 年度の入学生が結果的には 2 年連続で 0 名になった。創立以来の II 部入学者の動向は、次表のとおりである。

介護福祉学科 II 部の入学者状況

平成 14 年度	平成 15 年度	平成 16 年度	平成 17 年度	平成 18 年度	平成 19 年度	平成 20 年度	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 23 年度
23 名	30 名	28 名	23 名	15 名	19 名	8 名	9 名	0 名	0 名

このような状況を考えて、きわめて残念ではあるが、平成 24 年度入学試験に向けての学生募集停止の届けを、すでに平成 22 年 9 月に文部科学省へ届出している。

なお、大阪府の「『緊急雇用創出基金事業』 介護福祉士コース」を、平成 23 年度も受託することが 3 月初めに決まり、3 月から募集や入試を行った。

2) 子ども福祉学科

子ども福祉学科に関しては、平成 24 年度入学生は定員の 8 割を超えて、昨年度と比較すると大幅に改善できた。定員が確保できない最大の要因は、大阪府内に保育士養成施設が過剰になっていることにもよるが、卒業後の処遇が低すぎることはないとも言われている。その上、家庭が経済的に困窮して、学費の支弁が困難なケースが増えていることも影響している。介護福祉士養成課程には、国が修学資金制度を設けるなど一定の対策が採られているが、保育士養成課程には、学生支援機構の奨学金以外に目立った支援策がないことも影響しているようだ。大学独自の奨学金制度を望む声もあがっている。

3) 介護福祉学科 別科

平成 23 年度も「『緊急雇用創出基金』事業 介護福祉士コース」を受託することが決まり、介護福祉学科別科に 18 名の委託生を受け入れた。別科生を受託することは、介護福祉学科の定員不充足による収入減を補えるので、経営的には大きなプラス要因になっている。

4) 入学試験の改善

入学試験を 11 月から実施するように文部科学省から指導があったので、入試運営委員会では、その対策として A0 入試を導入することを検討し、本年度から実施に踏み切った。結果的には 30 名の A0 入試による入学者があり、受験者についても「目的意識が比較的はっきりした者が多い」など、試験担当者からは概ね好評であった。

心配していた指定校推薦入試の受験者減にはつながらず、全体では昨年度に比べて 10%ほど受験

者が増える結果となった。

5) 平成 22・23 年度入学生状況

平成 22 年度と 23 年度入学生は次表のとおりである。

学 科 (定員数)	H22 年度	H23 年度
介護福祉学科 I 部 (60 名)	47 名	44 名
介護福祉学科 II 部 (30 名)	0 名	0 名
子ども福祉学科 (80 名)	54 名	69 名
合 計	101 名	113 名
介護福祉学科別科 (24 名)	23 名	18 名

介護福祉学科 I 部と子ども福祉学科を合わせると、定員の 80%以上を確保できているので、昨年度との比較ではかなり改善できた。この結果は、教職員が力を合わせて努力した成果だと評価できる。

(2) 地域に向けての活動

1) 福祉実践研究センターの活動

① 市民講座の開催

過去 3 年間、文部科学省の補助金を得て「市民講座」を開催してきた。本年度は下記の表のとおり 6 回実施し、地域住民からも好評を博したが、必ずしも目標としていたほど聴衆が集まっていたとはいえない。土曜日の午後に参加者を集めるのには、どのようなテーマや講師で企画するべきか、今後の課題となっている。

5 月 15 日 (土) 14:00 ~	眞鍋 穰 (大阪健康福祉短期大学教授・小児科医)	「診察室から見える子どもの心とからだ」
6 月 19 日 (土) 14:00 ~	佐伯 洋 (立命館大学講師)	「子どもの心が見えますか — 『教育相談』の窓から」
7 月 10 日 (土) 14:00 ~	谷本陽蔵 (「つば市」会長・関西学院大学講師)	「堺のお茶」
9 月 25 日 (土) 14:00 ~	宮本正章 (元四天王寺国際仏教大学教授)	「詩歌を通してみた明星派歌人—石上露子」
10 月 9 日 (土) 14:00 ~	亀田英明 (かめだクリニック院長)	「認知症と共に生きる：ライフサイクルに学ぶ」
11 月 20 日 (土) 14:00 ~	青木道忠 (発達障害支援センターぼぼろ所長 子ども・若もの支援ネットワークおおさか副理事長)	「支援が必要な子どもと家族・地域」

② ケアワーク研究大会の開催

卒後研究会である「ケアワーク研究大会」は、年一回定期的で開催してきた。今年度は第 20 回の記念すべき大会であった。今年度の最大の成果は、「ケアワーク実践・研究集 No.1 『実践は理論を築き 理論は豊かな実践を導く』」が発刊されたことである。現場の指導者、本学の教員がいっしょになって、卒業生の実践を検証し、評価する内容になっているが、この実践・研究集が継続して発刊されることを期待したい。

(3) 国際交流

恒例のベトナムへの友好学術交流ツアー（第 9 回）は 12 月 21 日から 26 日に行われた。文部科学省の補助金が本年度限りになるが、サイゴン大学は引き続き本学と交流することに熱意を持っている。本年度は「第 1 回日越友好幼児教育セミナー」を行ったが、ベトナム側からの研究報告も多数出されて盛況であった。

本学とホーチミン大学の学生間の交流は恒例になっているが、本年度も短時間で友好を深め合えて成功だった。

(4) 進路状況

両学科とも、希望する者には進学・就職とも保障できた。大学卒業生の就職決定率が 7 割以下といわれている社会状況の中では、たいへん恵まれていると言える。求人の動きが全般的に早まる傾向なので、学生の立ち上がりが遅れがちであることは是正する必要がある。実習や大学祭などの取り組みもあるが、それらと両立させて自分の進路を考えさせないと立ち遅れる。年明けになると、正規職員の募集が著しく減るので、学生には気をつけさせる。今後とも資格を持った専門職の強みを生かして、完全な進路保障を目指す。

(5) 創立 10 周年記念行事に向けての取り組み

大阪健康福祉短期大学を平成 14 年 4 月に開設してから、平成 23 年度は 10 年目に当たるので、本年 11 月 23 日（祝）に祝賀会を催すことが決定されている。

祝賀会当日には、

- ・大学憲章を披露する。
- ・すでに出来上がった学園歌を披露する。
- ・諸団体と共にシンポジウムを行う。
- ・短大のロゴマークを募集して、選ばれた作品を披露する。
- ・記念誌を発行する。

などが計画されているが、これらが実施できるように、実行委員が役割分担して本年度から準備をすすめている。

3. みどり幼稚園

(1) 教育・保育

1) 教育方針・内容

生物進化の時間的スケールでは 100 年や 1000 年では変化はなく、人間の発達過程の基本は変わ

るものではありません。本年度の保育も伝統の保育内容を守りながらも次のような子育ての課題を
実践してきました。

- ① 子どもの今の生活を楽しいものにする。
- ② 知的好奇心を育て、学びの基礎をつくる。
- ③ 仲間とともに生きる力、社会性を育てる。
- ④ 生物が生きていける地球環境を守る。

とりわけ本年度の最後に起こった東日本大震災では、エネルギー問題の絡む原子力発電所の事故
によって私たち人類の生存、現代文明のあり方に大きな問題が突きつけられました。原発の事故に
よって安全神話が崩れ、これからはエネルギー消費についても自然エネルギーの研究開発に軸足を
置くとともに、新しい人間の生活文化を創造しなければならない時代が来たようです。

みどり幼稚園では本年度もしっかり育てた子どもたちが安心して生きていける地球環境を守る
ためにCO2の発生を抑え、エネルギー消費の無駄をなくそうと、節水、節ガス、節電力に取り組み、
植木への夏の散水にはプールの排水を池で浄水して使う。エアコンの余熱と換気のタイミングで節
電。出入り口には透明のビニール暖簾をかける。冬でも外遊びを十分に、などの工夫をしてしまし
た。今回の震災でなおいっそう環境と調和した国民生活の創造が求められていることを痛感しまし
たので、本年度の取り組みを次年度も引き続き強化していきたいと思えます。

そのためにも自然環境に調和する体づくりが求められます。現代の子どもの体力低下は運動不足
と朝食抜きが背後にあるといわれていますが、本園ではずっと前より子どもの生活リズム、食生活
の確立を基本に、薄着・はだし保育によって内臓や自立神経系を強くし、集中して遊びきらせるこ
とによって根気力、集中力を育ててきました。そして本年度も、すぐにはできないが一定の練習の
努力をすればできるような課題に挑戦させ、励まされ、ほめられることによって得られる成果(達
成感、自己肯定感)をいくつも体験させる保育を継続し、卒園式にはすべての子どもの体力・気力
の向上を目の前の事実として確かめてもらうことができました。

また、理科離れが心配される教育界で、幼児期からの知的好奇心を大きく育てる取り組みも進め
てきました。幼いときの実体験は、やがて高等教育に進んだときの学習・研究意欲につながって大
きく実を結ぶからです。この実現のため、イクメン時代にふさわしく、みどり幼稚園ダディーの会
を立ち上げ、6月の日曜参観日のあと伝統おもちゃづくりを職員とともにに行い、夏休みのPTA主催
「夜店・盆踊り・花火の夕べ」ではPTAのお母さんたちの夜店とともに、新しい第二園庭で①コ
リントゲーム ②絵合わせサイコロ ③光の回折を利用したレントゲン ④ベイゴマの実演 ⑤
お父さんとの相撲などを展示・実演しました。また、お正月には親子で羽子板づくり教室、グルー
プ羽根つきトーナメント大会でおしるこを食べ、お父さんならではの行事を楽しみました。

8月の天体望遠鏡お月見会は好天に恵まれ、多くの親子にほんものの月のクレーターを観望して
天文に興味を持ってもらったことは言うまでもありません。

2) 国際交流保育

本年も引き続き幼稚園児には国際交流保育の一環として、各年齢とも週一回の123ミック英会
話授業を実施した。指導には本園専属のネイティブ講師があたり、楽しく歌ったり動いたりゲーム
をしたりして、自然ななかで本場の発音に触れさせることができた。また、ハロウィンパーティー

など楽しく取り組む中で、身振り手振りで片言の英語を試す機会をつくり、異文化交流とこれからの学ぶ意欲にもつなげることもできました。

3) 安全・防犯

① 「命の札」

登園時に子どもを預けた保護者が受取り、降園時に子どもと引換に札を帰すシステム。昨年に引き続き「命の札」の意義を理解し、協力してもらうことができた。

② 避難訓練

火災非難訓練、地震避難訓練、暴漢乱入対策訓練を継続し、子どもの避難誘導練習とともに全職員の「刺叉」を使っての対暴漢防御訓練も定期的に行い、より安全な園を目指すことができました。

4) 保育者他

平成 22 年度も 4 クラス(年長 1、年中 1、年少 2)、保育者は園長 1 名、副園長(事務長兼任) 1 名、フリー主任 1 名、年長組(担任 1 副担任 1) 2 人、年中組 1 人、年少組 2 人、パートフリー教諭 1 名、ネイティブ英会話担当 1 名の 10 名体制でした。

職員の異動は 22 年 3 月末で退職 1 名(勤続 1 年)、補充なし。

(2) 運営・経営

1) 園児募集

平成 22 年 10 月 1 日に行われた平成 23 年度の願書受付では、昨年度と同様前日の深夜より並ばれた。受付開始後には定員より多く待っておられたので、定員超過者にはキャンセル待の了解後お帰りいただいた。しかし、年が明け 2 月になって転居や保育所に入れたのでキャンセルや転園する家庭が出て、平成 2 3 年度 4 月からの園児数は、定員未充足 1 名となる結果となりました。

H.23.5.1 現在資料	3 歳児 2 学級	4 歳児 1 学級	5 歳児 1 学級	計 4 学級
H.22.5.1 在籍数	26	34	31	91
進級±途中入退園児数		26	32	58
新入園児数	35	1	0	36
H.23 年度在籍数	35	27	32	94

大阪府幼稚園学級定員基準 3 歳児 1 学級 25 名まで 4・5 歳児 1 学級 35 名まで
募集定員は転出・転入で変わる場合がある。

H.24 年度園児募集数	33	0	0	33
H.24 年度在籍予想数	33	35	27	95

2) 土地・施設設備

長年借地として賃貸契約を継続してきた幼稚園敷地の 173 坪分を平成 22 年 10 月に取得することができました。地主さんからの申し入れで本地域では比較的 low 価格で購入できました。資金は長年この日のために準備してきた引当特定預金からの繰入で賄えました。

一方、第二園庭の北側隣接の空き家を取り壊され、更地になったところも平成 23 年 4 月に買収することができました。当面は耐震補強工事の際の資材置き場として活用し、その後第二園庭と接続します。

園舎の耐震補強診断・補強工事は平成 22 年 8 月より設計士とともに進めてきました。11 月には耐震診断を終わり、その結果を添えて大阪府に耐震工事の補助金申請をしましたが、施工面積の基準で東大阪市の耐震診断の補助事業には漏れてしまいました。大阪府の耐震補強工事の補助事業申請では現在内々定まで進んでいます。6 月に内定すれば確実に実施できる見込みです。工期は平成 23 年 7 月からの夏休みを使って行う予定ですが、預かり保育があるので短期間に、安全に十分注意して行いたいと思います。

3)中長期計画

今後の計画は、国の幼保一体化施策の進展との関係を考慮するとともに、園庭の広さに対応する定員の変更、管理棟の耐震のための立替など、資金の準備とともに計画していく予定です。